



昆虫の体は頭部、胸部、腹部に分かれ、胸部に3対のあしと2対のはねがある。体の中に骨がなく、外骨格というかたい殻で体を支えている。



□オオアオイトンボ（トンボ目アオイトンボ科）
アオイトンボより少し大きい。成熟してもオス・メスともに青白い粉はつかない。
全長は40-55mm。



□ホソミオツネントンボ（トンボ目アオイトンボ科）
水色の体に黒い模様が入ったイトンボ。冬になると茶色になり、成虫で越冬する。
全長は33-42mm。



□アオイトンボ（トンボ目アオイトンボ科）
金属のような光沢がある青緑色のイトンボ。成熟した個体は青白い粉をふくことがある。全長は34-48mm。



□ハグロトンボ（トンボ目カワトンボ科）
黒いはねに金属のような光沢のある体をもつトンボ。水草の多い河川の岸辺を好んで生息している。



□キイトンボ（トンボ目イトンボ科）
黄色い腹部と黄緑色の目（複眼）と胸部が特徴のイトンボ。水草の多い池沼に生息する。



□セスジイトンボ（トンボ目イトンボ科）
成熟するとオスは青色に、メスは緑色や黄褐色になる。水草が多く生い茂る水場に生息する。



□ホソミイトンボ（トンボ目イトンボ科）
ほかのイトンボよりも腹部が細長いことが特徴。初夏に羽化する夏型と、成虫で越冬する越冬型が存在する。



□アオモンイトンボ（トンボ目イトンボ科）
最も普通に見られるイトンボの一種。腹部の8・9節目が青く目立つ。
全長は29-38mm。



□カトリヤンマ（トンボ目ヤンマ科）
周囲に樹林のある水田や湿地に生息する。市内での目撃数は非常に少ない。
夕方に活発に活動する。



□ギンヤンマ(トンボ目ヤンマ科)
みどりいろ　ふくがん　きょうぶ　とくちょう
あざやかな緑色の複眼と胸部が特徴。
かなか　み　きかい　おお
ヤンマ科の中では見られる機会が多く、
がっこう　はせい
学校のプールなどでも発生する。

EH



□クロスジギンヤンマ(トンボ目ヤンマ科)
に　ほんしゅ　きょうぶ　くろ
ギンヤンマに似るが、本種は胸部に黒い
せん　はい　はや　じき　あらわ
線が入る。ギンヤンマより早い時期に現
れる。

MS



□ウチワヤンマ(トンボ目サナエトンボ科)
ふくぶ　せんたん　ひろ　おおがた
腹部の先端がウチワのように広がる大型
おお　ひら　ちしう　この
のサナエトンボ。大きく開けた池沼を好
すいしん　ふか
み、ヤゴは水深の深いところにすむ。

AT



□コオニヤンマ(トンボ目サナエトンボ科)
にほん　かなか　さいだい　しゅ
日本のサナエトンボ科の中で最大の種。
おお　からだ　くら　とうぶ　ちい　うし
大きい体と比べて頭部が小さく、後ろあ
なが　とくちょう
しが長いことが特徴。

SN



□ナゴヤサナエ(トンボ目サナエトンボ科)
ふくぶ　せんたん　ひろ
腹部の先端が広がるサナエトンボの
なかま　おお　かせん　せいそく　ぶんぶ
仲間。大きな河川に生息するが、分布は
きくしょべき
局所的である。

SN



□キイロサナエ(トンボ目サナエトンボ科)
きょうぶ　くろ　せん　ほん　はい
胸部に黒い線が2本入ったサナエトンボ
なかま　あたまかわ　せん　どぎ
の仲間。頭側の線は途切れていることもある。

SN



□オニヤンマ(トンボ目オニヤンマ科)
おお　こたい　こ　にほん　さいだい
大きな個体は10cmを超える日本最大の
さ　い　と　まわ
トンボ。お気に入りのルートを飛び回り、え
い　ものが居ないかパトロールしている。

SN



□オオヤマトンボ(トンボ目ヤマトンボ科)
いけ　しゅうい　こうそく　と　まわ
池の周囲を高速で飛び回ってパトロール
きょうぶ　きんぞく　こうたく
するトンボ。胸部は金属光沢のある
あおみどりいろ
青緑色をしている。

SN



□チョウトンボ(トンボ目トンボ科)
さんぞく　こうたく　くろ
金属光沢のある黒いはねをもつトンボ。
ひかり　あ　にじいろ
はねに光が当たると虹色にかがやく。
と
チョウのようにひらひら飛ぶ。

AT



□コシアキトンボ(トンボ目トンボ科)
ふくぶ　せんぼう　しろ　くろ
腹部の前方だけ白くなった黒いトンボ。
こし　ぶぶん　あ
まるで腰の部分が空いているように見え
なまえ
ることから名前が付けられた。

AT



□コフキトンボ(トンボ目トンボ科)
ひとまわ　ちい
シオカラトンボを一回り小さくしたようなト
ンボ。メスは、はねに帶状の模様がある
こたい　み
個体も見られる。

MS



□ショウジョウトンボ(トンボ目トンボ科)
あか　いけ　この　がっこう
明るい池を好み、学校のプールなどでも
み　せいじゅく
見られる。成熟したオスは、全身があざや
かに濃い赤色になる。

AT



□ナツアカネ(トンボ目トンボ科)
あか いっしゅ こと なつ
赤とんぼの一種。アキアカネと異なり、夏
へいち み あかいろ
でも平地で見られる。アキアカネより赤色
こ で けいこう
が濃く出る傾向がある。



□アキアカネ(トンボ目トンボ科)
もっと みちか ぶか あか いっしゅ
最も身近でなじみ深い赤とんぼの一種。
なつ やま せいかつ あき へいち お
夏は山で生活し、秋になると平地に下りて
くる。



□ノシメトンボ(トンボ目トンボ科)
せんたん かっしょく あか いっしゅ
はねの先端が褐色の赤とんぼの一種。
こと ふくぶ
コノシメトンボと異なり、オスの腹部は
せいじゅく ま か 成熟しても真っ赤にはならない。



□コノシメトンボ(トンボ目トンボ科)
せんたん かっしょく あか いっしゅ
はねの先端が褐色の赤とんぼの一種。
せいじゅく ふくぶ ま か
成熟したオスの腹部は真っ赤になる。
しゃしん こたい
写真の個体はメス。



□ウスバキトンボ(トンボ目トンボ科)
いどうせい つよ わた し
移動性が強く、渡りをするトンボとして知ら
なんばう ぜんごく ひらい いちじてき
れている。南方から全国に飛来し、一時的
はっせい に発生する。



□ハラビロトンボ(トンボ目トンボ科)
なまえ はばひろ ふくぶ とくちょう
名前のとおり幅広い腹部が特徴的のトン
ボ。オスは黒っぽい青色で、メスは黄色と
黒のまだら模様をしている。

ナツアカネとアキアカネ・ノシメトンボとコノシメトンボの見分け方

トンボ科アカネ属のトンボは「赤とんぼ」と呼ばれ、似た姿をした種が多いです。
市内でよく見られる、ナツアカネとアキアカネ、ノシメトンボとコノシメトンボは、胸部の模様で見分
けることができます。

◇ナツアカネ



◇アキアカネ



■ノシメトンボ



■コノシメトンボ





AT

□シオカラトンボ（トンボ目トンボ科）
最も身近に見られるトンボの一つ。
メスは麦わらのような体色をしており、「ムギワラトンボ」と呼ばれている。



KK

□オオシオカラトンボ（トンボ目トンボ科）
周辺に樹林がある水辺に生息する。
オス・メスともに複眼は黒く、オスは全身に青い粉をふく。



NU

□ヨツボシトンボ（トンボ目トンボ科）
はねにある4つの黒い紋が名前の由来。
植物の多い池や湿地に生息するが、市内での目撃数は少ない。



□ヒゲジロハサミムシ（ハサミムシ目ハサミムシ科）
あしの付け根が黒く、触角の先端が白い
ことが特徴。落ち葉の下や朽ち木の中に
生息する。



SN

□エンマコオロギ（バッタ目コオロギ科）
人家の周辺でも多く見られる大型のコオロギ。秋に成虫となり、「コロコロリー」と鳴く。



□ツヅレサセコオロギ（バッタ目コオロギ科）
体長16mmほどの最もよく見かけるコオロギの一つ。「リーリー」とやや大きな声で鳴く。



MS

□アオマツムシ（バッタ目マツムシ科）
細長い葉のような見た目をしている。
樹上性で、街中の街路樹などでもよく見られる。「リーリー」と高く大きな声で鳴く。



FF

□カネタタキ（バッタ目カネタタキ科）
樹上性で公園や街路樹などでよく見られる。「チン、チン」とカネをたたいた音のような声で鳴く。



NU

□ケラ（バッタ目ケラ科）
湿った環境を好み、草地や田畠の地中に生息する。羽化した個体はよく飛び、街灯などの灯りに集まることもある。



YN

□マダラカマドウマ（バッタ目カマドウマ科）
はねをもたない昆虫で、長い触角と発達した後ろ足が特徴。木のうろや倒木などに集団で見られることが多い。



□コロギス（バッタ目コロギス科）
コオロギとキリギリスの中間のような見た目の昆虫。夜行性で木の上のほうにいることが多いので見つけにくい。



AT

□ヤブキリ（バッタ目キリギリス科）
成虫は樹上性で雑木林などに生息する。
緑色や褐色の個体が見られ、地域によって鳴き声が異なる。



□ヒガシキリギリス(バッタ目キリギリス科)
植物が生い茂る草原や河川敷などに
生息する。真夏の昼間に「ギース、チョン」と鳴く。



□ヒメギス(バッタ目キリギリス科)
湿った草地を好むキリギリスの仲間。
体は黒く、背中は褐色や緑色の個体が
見られる。



□クビキリギス(バッタ目キリギリス科)
口の周りが赤いキリギリスの仲間。緑色
や褐色の個体が多いが、まれにピンク色
の個体も見られる。成虫で越冬する。



□ホシササカリ(バッタ目キリギリス科)
乾燥した草地でよく見られるキリギリスの
仲間。前足の側面に黒い斑紋が並ぶ。
「ジー、ジー」とくり返し鳴く。



□オナガササカリ(バッタ目キリギリス科)
メスの産卵管は非常に長くまっすぐで、
自分の体よりも長くなる。
「ジリリ、ジリリ」とやや大きな声で鳴く。



□ツユムシ(バッタ目ツユムシ科)
全身があざやかな緑色で体が細長い。
植物食で、さまざまな植物の新芽や葉を
食べる。



□オンプバッタ(バッタ目オンブバッタ科)
人家の庭先にも生息する最も身近なバッタの一つ。メスがオスをおんぶする姿がよく見られる。



□ツチイナゴ(バッタ目バッタ科)
土のような色をした大型のバッタ。
目の下になみだのような模様があることが特徴。成虫で越冬する。



□コバネイナゴ(バッタ目バッタ科)
水田の周りで多く見られるバッタ。
はねの長さは個体により異なるが、短い個体が多い。



□ハネナガイナゴ(バッタ目バッタ科)
コバネイナゴに似ているが、はねの長さは本種がより長くなる。
水田などの湿った草地に生息する。



□ショウリヨウバッタ(バッタ目バッタ科)
頭のとがった細長いバッタ。
オスは飛ぶときにチキチキと音を出すため、「チキチキバッタ」と呼ばれる。



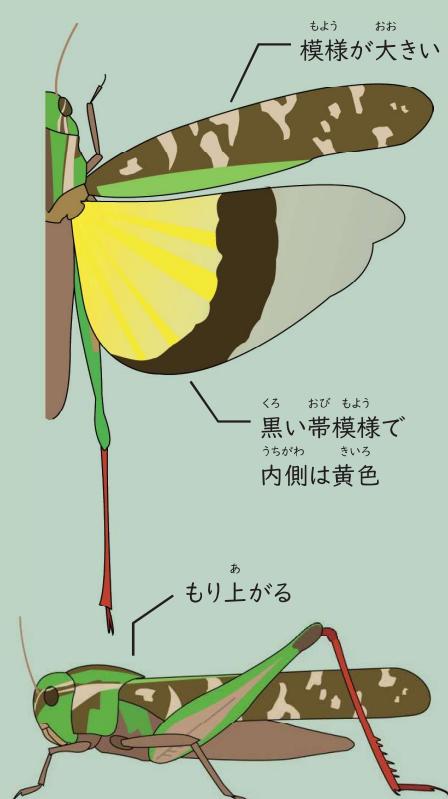
□ショウリヨウバッタモドキ(バッタ目バッタ科)
イネ科の植物の多い草地に生息する。
葉にとまり、じっとしていることが多く、外敵に見つかると葉の裏に隠れる。

トノサマバッタ・クルマバッタ・クルマバッタモドキの見分け方

■トノサマバッタ



■クルマバッタ



■クルマバッタモドキ



□マダラバッタ(バッタ目バッタ科)
乾燥した草地を好むバッタ。
緑や褐色、ピンクなどさまざまな色や
模様の個体が存在する。



□トノサマバッタ(バッタ目バッタ科)
開けた環境を好むまだら模様のバッタ。
ジャンプ力が高く、近づくとすぐに飛んで
逃げる。



□クルマバッタ(バッタ目バッタ科)
自然豊かな草地に生息するバッタ。
羽ばたくと後ろばねの黄色い部分が、タイ
ヤが回っているように見える。



□クルマバッタモドキ(バッタ目バッタ科)
開けた草地でよく見られるバッタ。
クルマバッタよりも生息数が多く、身近な
草むらにも生息している。



□イボバッタ(バッタ目バッタ科)
背中にイボ状の突起がある灰色のバッタ。
グラウンドや空き地などで見られ、近
づくとすぐに飛んで逃げる。



□ナナフシモドキ(ナナフシ目ナナフシ科)
雑木林などに生息する木の枝のような見
た目の昆虫。メスだけで繁殖するこ^で
ができる。



□コカマキリ(カマキリ目カマキリ科)
さいだい ちい かっしょく
最大6cmほどの小さなカマキリ。褐色の
こたい おお みどりいろ こたい み
個体が多いが、まれに緑色の個体も見ら
れる。カマの内側に白と黒の模様がある。



□オオカマキリ(カマキリ目カマキリ科)
こんちゅう とき こどり つか
昆虫だけでなく、時にはトカゲや小鳥を捕
まえて食べることもある。
かつよく みどりいろ こたい み
褐色と緑色の個体が見られる。



□ハラビロカマキリ(カマキリ目カマキリ科)
じゅじょうせい ふくぶ ひろ
樹上性のカマキリで腹部が広いことが
とくちょう みどりいろ こたい おお まえ きいろ
特徴。緑色の個体が多い。前あしに黄色
い突起が3対ある。



□モリチャバネゴキブリ(ゴキブリ目ゴキブリ科)
ぞうきばやし そうげん せいそく ちゃいろ
雑木林や草原に生息する茶色のゴキブ
り。家の中に現れるチャバネゴキブリとは
別の種類。



□ニイニイゼミ(カメムシ目セミ科)
な ちい
「チーー」と鳴く小さなセミ。ほかのセミより
うか はや がつごろ な はじ
も羽化が早く、6月頃から鳴き始める。
抜け殻は泥におおわれている。



□クマゼミ(カメムシ目セミ科)
な くろ おお
「シャーシャー」と鳴く黒くて大きなセミ。
にし にほん おお せいそく きんねん かわぐち
西日本に多く生息するが、近年川口での
もくげき ふ 目撃も増えている。



□アブラゼミ(カメムシ目セミ科)
まちなか み な
街中でもよく見られ、「ジリジリ」と鳴く。
ぜんたい いろ すく
はね全体に色のついたセミは少なく、
せかいいき あざら
世界的にも珍しい。



□ヒグラシ(カメムシ目セミ科)
すず こえ な
「カナカナ」と涼しげな声で鳴くセミ。
あさ ゆうがた すず じかん な おお
朝や夕方の涼しい時間に鳴くことが多い。



□ツクツクボウシ(カメムシ目セミ科)
な
「オーシンツクツク」と鳴くセミ。
おそ み あき なか
ほかのセミより遅くまで見られ、秋の中ご
ろまで鳴いている。



□タケオオツクツク(カメムシ目セミ科)
ねん こくない はつ ていちやく かわぐち かくにん
2016年に国内初の定着が川口で確認
された外来種。
かいりいしゅ
日没前後に「グィーン、ギリギリ」と鳴く。



□ミンミンゼミ(カメムシ目セミ科)
な ひがし にほん
「ミーンミンミン」と鳴くセミ。東日本では
へいち み にし にほん さんち
平地で見られるが、西日本では山地に
せいそく
生息する。



□ツマグロオヨコバイ(カメムシ目ヨコバイ科)
せんたん くろ なかま
はねの先端が黒いヨコバイの仲間。
み め よ
その見た目から「バナナムシ」と呼ばれる
こともある。



□オオヨコバイ(カメムシ目ヨコバイ科)
たいちょう きみどりいろ
体長1cmほどの中間。さまざまな植物の汁を吸うため、時には農業害虫とされる。



□ベッコウハゴロモ(カメムシ目ハゴロモ科)
ぜんちょう なかま
全長1cmほどの中間。
かっしょく しろ ほん おび め
褐色のはねに白い2本の帯と目のような模様が特徴。



□チュウゴクアミガサハゴロモ(カメムシ目ハゴロモ科)
さいきん あら かくにん ちゅうごく たいいく げんさん
最近新たに確認された中国大陸原産の外來種。こげ茶色のはねの端に白い三角の模様がある。



□アカハネナガウンカ(カメムシ目ハネガウン科)
じぶん からだ なが
自分の体よりも長いはねとあざやかなオレンジの体が特徴。
からだ とくちょう
ススキなどイネ科の植物の汁を吸う。



□コオイムシ(カメムシ目オイムシ科)
すいちゅう なかま がいてき
水中にすむカメムシの中間。オスが外敵から卵を守るために卵を背負う姿から「子負虫」と名付けられた。



□コチビミズムシ(カメムシ目ミズムシ科)
たいちょう すいせい なかま
体長2mmほどの中間。水生のカメムシの中間。流れのゆるやかな河川などに生息する。



□アメンボ(カメムシ目アメンボ科)
いけ すいめん み
池やプールの水面でよく見られる。肉食性で水面に落ちた小さな昆虫などの体液を吸う。



□ヨコヅナサシガメ(カメムシ目サシガメ科)
ふくぶく しろくろ もよう
腹部のヘリが白黒のしま模様になっているサシガメの中間。サシガメの仲間は刺すものが多いため、注意が必要。



□シマサシガメ(カメムシ目サシガメ科)
に しろくろ
ヨコヅナサシガメに似るが、足にも白黒のしま模様がある。
しょくぶつ は うえ み
植物の葉の上でよく見られる。



□アカサシガメ(カメムシ目サシガメ科)
たいちょう せんしん あかいいろ
体長15mmほどの中間。小さな昆虫を捕まえ、針のようになると口を刺して体液を吸う。



□ヒメダラナガカメムシ(カメムシ目マダラナガカメムシ科)
あか くろ もよう とくちょう
あざやかな赤と黒の模様が特徴のカメムシ。背中の模様は変異が多く、さまざまな模様の個体が見られる。



□ヒメジュウジナガカメムシ(カメムシ目マダラナガカメムシ科)
せなか あか くろ もよう み
背中の赤と黒の模様が“X”のように見えるカムムシ。ガガイモ科の植物に集団発生することがある。



□オオホシカメムシ(カメムシ目オオホシカメムシ科)
あかいろ くろ えんけい もよう
くすんだ赤色に黒い2つの円形の模様が
とくちよう か
特徴のカメムシ。アカメガシワやミカン科
しょくぶつ あつ
の植物によく集まる。



□クモヘリカメムシ(カメムシ目ホヘリカメムシ科)
たいちょう はそなが たいけい
体長16mmほどの細長い体型のカメム
シ。イネ科の植物を好み、イネの農業害虫
か しょくぶつ この のうぎょうかいけいちゅう
として知られている。



□ホソヘリカメムシ(カメムシ目ホヘリカメムシ科)
ほそなが からだ ふと
細長い体のカメムシで、トゲのある太い
うし 後ろあしをもつ。
ようちゅう に すぐた
幼虫はアリに似た姿をしている。



□ホソハリカメムシ(カメムシ目ヘリカメムシ科)
しろ ふちど めだ かくしょく
白い縁取りが目立つ褐色のカメムシ。
きょうぶつ りょううし
胸部の両端がとがっている。
か しょくぶつ
イネ科の植物につく。



□ホシハラビロヘリカメムシ(カメムシ目ヘリカメムシ科)
つい ちい くろ てん おうかっしょく
はねに1対の小さな黒い点がある黄褐色
か しょくぶつ この のカメムシ。クズなどのマメ科の植物を好
んで食べる。



□アカスジキンカメムシ(カメムシ目キンカメムシ科)
きんぞく こうたく みどりいろ あか おび もよう
金属光沢のある緑色に赤い帯模様が
はい うつく 入った美しいカメムシ。ミズキなどの
こようじゅ あつ 広葉樹に集まる。



□マルカメムシ(カメムシ目マルカメムシ科)
たいちょう
体長5mmほどのカメムシで、クズなどマメ
か しょくぶつ あつ たるもの ま いし
科の植物に集まる。建物のすき間や石の
じた えとど
下などで越冬する。



□ウズラカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
どうぶ とくちょう
とがった頭部が特徴のカメムシ。
からだ もよ とり に
体の模様が鳥のウズラに似ていることから名付けられた。



□クサギカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
ちやいろ おお
こげ茶色の大きなカメムシで、さまざま
しょくぶつ えととう あたた かおく
植物につく。越冬のために、暖かい家屋
しんにゅう へ侵入することもある。



□トゲシラホシカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
きょうぶ はし たいちょう ちい
胸部の端がとがった体長5mmほどの小
ちやいろ さな茶色のカメムシ。
しろ てん
はねに白い点が2つある。



□キマダラカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
くろいろ きいろ もよう はい おお
黒色に黄色のまだら模様が入った大きな
きんねん ぶんぶ ひろ
カメムシ。近年分布を広げており、サクラ
み の木などによく見られる。



□ブチヒゲカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
しょっかく からだ しろくろ もよう
触角と体に白黒のしま模様があるカメム
シ。さまざまな植物の汁を吸うため、時に
のぎょうかいけいちゅう とき
は農業害虫とされる。

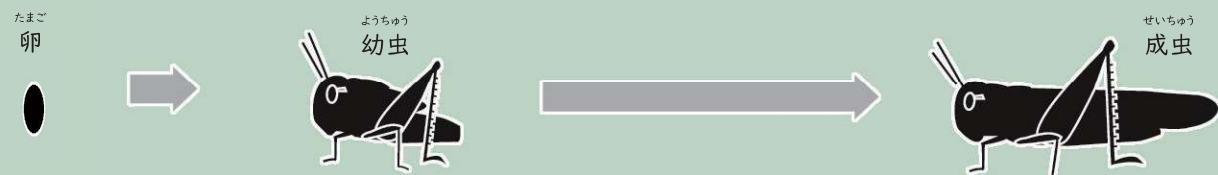
ふかんぜんへんたい かんぜんへんたい 不完全変態と完全変態

へんたい せいちょう すがた か おお こんちゅう ふかんぜんへんたい しゅ
変態とは、いきものが成長するときに姿を変えることで、多くの昆虫は不完全変態の種と
完全変態の種に分けることができます。

ふかんぜんへんたい もく もく もく もく ■ 不完全変態(トンボ目、バッタ目、カマキリ目、カメムシ目など)

たまご か ようちゅう セイチュウ セイチュウ
卵からふ化してから、幼虫→成虫というように成長します。

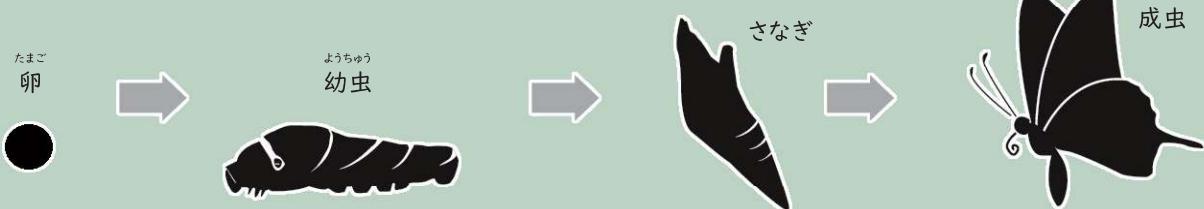
ようちゅう たっぴ かえ おお
幼虫は脱皮をくり返して大きくなりますが、はねがないので飛ぶことはできません。



かんぜんへんたい もく もく もく もく ■ 完全変態(ハチ目、コウチュウ目、チョウ目、ハエ目など)

たまご か ようちゅう セイチュウ セイチュウ
卵からふ化してから、幼虫→さなぎ→成虫というように成長します。

かんぜんへんたい こんちゅう ようちゅう せいかく すかた おお
完全変態の昆虫は幼虫と成虫の姿が大きく変わります。



□ナガメ(カメムシ目カメムシ科)
アブラナ科の植物を好み、「菜の花につくカメムシ」ということから「ナガメ」と名付けられた。



□アカシジカメムシ(カメムシ目カメムシ科)
体長1cmほどの赤と黒のしま模様が特徴的なカメムシ。セリ科の植物の花でよく見られる。



□エサキモンキツノカメムシ(カメムシ目ツノカメムシ科)
クリーム色のハートマークが特徴的なカメムシ。メスが卵や幼虫を外敵から守る習性をもつ。



□オオホシオナガバチ(ハチ目ヒメバチ科)
長い産卵管をもつオナガバチの一種。枯れ木の中のキバチ類やカミキリムシの幼虫などに卵を産み付ける。



□ヒメハラナガツチバチ(ハチ目ツチバチ科)
地中のコガネムシ類の幼虫に卵を産み付ける寄生バチの一種。ふ化した幼虫は宿主を食べて育つ。



□キンケハラナガツチバチ(ハチ目ツチバチ科)
ヒメハラナガツチバチに似るが、本種は全体的に黄褐色の毛が生える。地中のコガネムシ類の幼虫に卵を産み付ける。



□オオフタオビドロバチ（ハチ目スズメバチ科）
腹部に2本の黄色い帯があるドロバチ。
竹筒などに巣をつくり、捕まえたガの幼虫などを運び入れる。



□ミカドトックリバチ（ハチ目スズメバチ科）
体長10-15mmほどの、黒色に黄色い模様が入ったドロバチ。とっくりの形をした巣をつくる。



□スズバチ（ハチ目スズメバチ科）
体長17-26mmほどの、黒色にオレンジの模様が入ったドロバチ。木の枝などに泥でできた巣をつくる。



□オスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
世界最大のスズメバチ。木のうろや地中に巣をつくる。攻撃的な性格で、強い毒性をもつため非常に危険。



□コガタスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
人家の軒下や生い茂った木など雨の当たらない場所に巣をつくる。夏から秋にかけて攻撃性が増すため、注意が必要。



□モンスズメバチ（ハチ目スズメバチ科）
腹部の黄色い帯が波打っているように見えるスズメバチ。夜にも活動し、特にセミを好んで捕まえて幼虫のエサにする。



□キアシナガバチ（ハチ目スズメバチ科）
背中にある2本の黄色い帯が特徴のアシナガバチ。攻撃性が高く、巣に近づくとおそってくる。



□セグロアシナガバチ（ハチ目スズメバチ科）
キアシナガバチに似ているが、本種は背中が茶色みがかり、メスは触角全体が黄色い。攻撃性が高く、注意が必要。



□フタモンアシナガバチ（ハチ目スズメバチ科）
腹部にある2つの黄色い斑紋が特徴のアシナガバチ。大人しい性格だが、巣を刺激するとおそってくる。



□キムネクマバチ（ハチ目ミツバチ科）
体長2cmを超えるずんぐりとした体型のハチ。胸部に黄色い毛が生える。温厚な性格で、花の蜜をもとめて飛び回る。



□セイヨウミツバチ（ハチ目ミツバチ科）
ハチミツ作りのために海外から導入されたミツバチ。ニホンミツバチよりやや大きく、体色は黄色みが強い。



□ニホンミツバチ（ハチ目ミツバチ科）
木のうろなどに巣をつくる日本在来のミツバチ。飼育がやや難しく、取れるハチミツの量も少ない。



□クロヤマアリ(ハチ目アリ科)
たいちょう くろ
体長5mmほどの黒いアリ。
もつと みぢか ひと こうえん そうげん
最も身近なアリの一つで、公園や草原などでもよく見られる。



□トビイロシワアリ(ハチ目アリ科)
たいちょう ちやいろ
体長2.5mmほどのこげ茶色のアリ。
まちなか み ま
街中でよく見られ、アスファルトのすき間などにも巣をつくる。



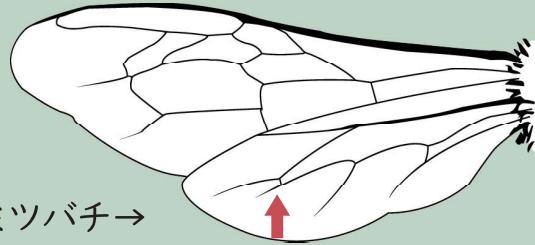
□ウスバカゲロウ(アミメガフウ目ウバカゲロウ科)
よ ようちゅう すなば
アリジゴクと呼ばれる幼虫は、砂場にすり
じょう す お こんちゅう
ぱち状の巣をつくり、巣に落ちてきた昆虫
おお つか おお つか
などを大きなあごで捕まえる。



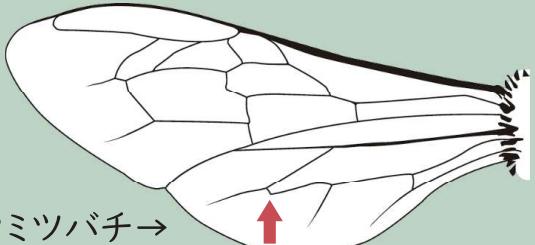
□ハイイロゲンゴロウ(コウチュウ目ゲンゴロウ科)
がっこう み こかた
学校のプールでも見られる小型のゲンゴ
ごと すいめん
ロウ。ほかのゲンゴロウと異なり、水面から直接飛び立つことができる。

二ホンミツバチとセイヨウミツバチの見分け方

おお ちい たいしょく
大きさはニホンミツバチのほうがやや小さい。体色はニホンミツバ
ちが全体的に黒っぽく、セイヨウミツバチが黄っぽく見えます。
また、後ろばねの翅脈(はねにある筋)で確実に見分けることが
でき、矢印の部分の翅脈の入り方が異なります。



ニホンミツバチ→



セイヨウミツバチ→



□トウキョウヒメハンミョウ(コウチュウ目ハンミョウ科)
たいちょう こかた
体長1cmほどのやや小型のハンミョウ。
ぶんぶ きよしょべき とうきょう きたきゅうしゅう しゅうへん
分布は局所的で、東京や北九州の周辺
せいそく せいそく
に生息している。



□マイマイカブリ(コウチュウ目オサムシ科)
しゅしょく おおがた こうちゅう
カタツムリを中心とする大型の甲虫。
にはん ひろ ぶんぶ ちいき
日本に広く分布しているが、地域によって
いろ かた ごと
色や形が異なる。



□ノコギリクワガタ(コウチュウ目クワガタムシ科)
つよ ま おお いくちょう
強く曲がる大あごが特徴のクワガタムシ。
せきかっしょく こたい おお くろ こたい
赤褐色の個体が多いが、まれに黒い個体
あらわ
も現れる。



□ヒラタクワガタ(コウチュウ目クワガタムシ科)
ぞうきばやし かせんりん み
雑木林や河川林で見られるクワガタムシ。
かわぐち しない こたいすう すく み
川口市内では個体数が少なくあまり見ら
れない。



□コクワガタ（コウチュウ目クワガタムシ科）
とし　ぶ　もっと　みちか　み
都市部で最も身近に見られるクワガタム
シ。公園や雑木林の樹液の出ている木に
集まる。

SN



□オオセンチコガネ（コウチュウ目センコガネ科）
どうぶつ　あつ　なかま
動物の粪に集まるコガネムシの仲間。
地域によって、赤や緑、青などさまざまな
体色の個体が見られる。

NU



□ヒゲブトハナムグリ（コウチュウ目ヒゲブトハナムグリ科）
たいちょう　どいろ　こうちゅう　しょっかく
体長1cmほどの銅色の甲虫。オスの触角
は大きく目立つが、メスは小さい。
写真の個体はオス。

NU



□カブトムシ（コウチュウ目コガネムシ科）
りっぽ　つの　おおがた　ごうちゅう
オスは立派な角をもつ大型の甲虫。
夜になるとクヌギやコナラの樹液に集ま
り、ほかの昆虫と場所を取り合う。

CK



□コカブト（コウチュウ目コガネムシ科）
せいちゅう　こんちゅう　し　た
成虫はほかの昆虫やその死がいを食べ、
樹液に集まることは少ない。成虫の寿命
は長く、1年以上生きる。

HA



□マメコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
たいちょう　かい
体長1cmほどの小さなコガネムシ。
さまざまな植物に集まり、集団で見られる
ことが多い。

CK



□セマダラコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
もうよう　ちい
まだら模様のはねをもった小さなコガネム
シ。色や模様には変異が多く、さまざま
なタイプの個体が見られる。

CK



□アオドウガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
こうたく　ふくぶ　はし
コガネムシより光沢がにぶく、腹部の端に
毛が生えている。さまざまな植物の葉を食
べる。

HA



□ドウガネブイブイ（コウチュウ目コガネムシ科）
ぜんしん　どういろ
全身がにぶい銅色をしたコガネムシの
仲間。さまざまな植物の葉を食べるため、
時に農業害虫とされる。

HA



□コガネムシ（コウチュウ目コガネムシ科）
なかま　に　しゅ　おお
コガネムシの仲間は似ている種が多い
が、本種は特に強い金属光沢があり、あし
も全体が緑色になる。

CK



□コフキコガネ（コウチュウ目コガネムシ科）
おうかっしょく　け
黄褐色の毛をもつたはねをもつこげ
茶色のコガネムシ。幼虫は広葉樹の根を、
成虫は広葉樹の葉を食べる。



□クロカナブン（コウチュウ目コガネムシ科）
こうたく　くろいろ　とくちょう
光沢のある黒色のはねが特徴。
平地に多く生息する種だが、川口市内の
個体数は多くない。

CK



□カナブン(コウチュウ目ガネムシ科)
かっしょく みどりいろ たいしょく こたい
褐色や緑色などさまざまな体色の個体が
見られる。前ばねを閉じたまま後ろばねを
出して飛ぶことができる。



□コアオハナムグリ(コウチュウ目ガネムシ科)
はな はな みつ かんた
花にもぐりこんで花の蜜や花粉を食べる。
たいしょく みどりいろ どういろ こたい み しろ
体色は緑色や銅色の個体が見られ、白い
斑紋が散らばっている。



□シラホシハナムグリ(コウチュウ目ガネムシ科)
じゅえき あつ なかま
樹液に集まるハナムグリの仲間。
に ほんしゅ どうぶ
シロテンハナムグリに似るが、本種は頭部
の中央がへこんでいない。



□シロテンハナムグリ(コウチュウ目ガネムシ科)
に ほんしゅ どうぶ
シラホシハナムグリに似るが、本種は頭部
の中央がへこむ。銅色や赤色などさまざま
な体色の個体が見られる。



□ジョウカイポン(コウチュウ目ジョウカイポン科)
ぞうきばやし かせんじき み こうちゅう
雑木林や河川敷でよく見られる甲虫。
せいちゅう ちい ごんちゅう ほしょく
成虫は小さな昆虫を捕食するほか、花の
みつ かふん た おお 蜜や花粉を食べることも多い。



□サビキコリ(コウチュウ目コメツキムシ科)
こうえん ぞうきばやし み
公園や雑木林でよく見られるコメツキム
よる あか シ。植物の葉の上に見られるほか、夜は灯
ひらい りに飛来することもある。



□タマムシ(コウチュウ目タマムシ科)
さんぞく こうたく みどりいろ あか すじ はい
金属光沢のある緑色に赤い筋が入った
こうちゅう まなづ ひるま そうきばやし たか
美しい甲虫。真夏の昼間に雑木林の高い
と ところを飛ぶ。



□ヨツボシオオキスイ(コウチュウ目オキスイムシ科)
くろ きいろ てん とくちょう
黒いはねに4つの黄色い点が特徴の
こうちゅう なづば じゅえき て
甲虫。夏場に樹液の出るクヌギやコナラなど
み て よく見られる。



□ヨツボシケシキスイ(コウチュウ目ケシキムシ科)
たいちょう くろいろ あか
体長4-14mmほどの、黒色に4つの赤い
はんもん めだ こうちゅう そうきばやし せいそく
斑紋が目立つ甲虫。雑木林に生息し、
じゅえき て さ あつ 樹液の出ている木に集まる。



□ナナホシテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
もっと みちか ひと あかいろ
最も身近なテントウムシの一つで、赤色に
くろ もん どくちゅう ようちゅう せいちゅう
7つの黒い紋が特徴。幼虫も成虫もアブ
た そだ ラムシを食べて育つ。



□ヒメカメノコテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
じんか にわさき こうえん み
人家の庭先や公園でよく見られるテント
もうよう へんい おお
ウムシ。はねの模様は変異は多く、さまざま
もうよう こたい そんさい 模様の個体が存在する。



□ナミテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
であ きかい おお みちか
出会いの多い身近なテントウムシの
ひと べつゆ かたちが
一つ。別種と勘違いするほど、さまざまな
もうよう こたい そんさい 模様の個体が存在する。



□カメノコテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
カメの甲羅のような模様の大型のテントウムシ。クルミやヤナギの木で見られる。ハムシなどほかの昆虫の幼虫を食べる。



□キイロテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
あざやかな黄色いはねのテントウムシ。うどんこ病菌などの葉に付いたカビを食べる益虫。



□ムネアカオオクロテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
黒いはねと赤い頭部と胸部が特徴の外来種。マルカヘムシの幼虫を食べると考えられている。



□アカホシテントウ(コウチュウ目テントウムシ科)
黒色に赤い紋が浮かび上がるような模様のテントウムシ。クリやウメの害虫とされるタマカイガラムシ類を食べる。



□キマワリ(コウチュウ目ゴミムシダマシ科)
雑木林に生息し、木の幹や枯れ木を歩く姿がよく見られる。黒色や青みがかった個体などさまざまな体色が見られる。



□サトユミアシゴミムシダマシ(コウチュウ目ボムシダマシ科)
雑木林の倒木や朽木の近くでよく見られる。前あしが弓のように曲がっていることから名付けられた。



□マメハンミョウ(コウチュウ目ツチハンミョウ科)
幼虫はバッタ類の卵のかたまりを食べて育つ。危険を感じると、あしの関節から有毒な液体を出す。



□ウスバカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
ほかのカミキリムシよりも前ばねがうすい大型のカミキリムシ。夜行性で昼間は木のくぼみなどに隠れている。



□ノコギリカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
灯りによく飛来する黒色のカミキリムシ。幼虫はタケの根も食べるため、他のカミキリムシが少ない竹林でも見られる。



□ミヤマカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
胸部の横しわが特徴の大型のカミキリムシ。夜行性で夜になるとクヌギなどの樹液に集まる。



□キマダラミヤマカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
茶褐色に金色の毛が生えたまだら模様のカミキリムシ。夜に樹液に集まるほか、花粉を食べることもある。



□ヨツスジトラカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
黄色と黒のしま模様をしたカミキリムシ。アシナガバチに擬態して身を守っていると考えられている。



□カタシロゴマフカミキリ(コウチュウ目ガミキリムシ科)
しろ くろ はいいろ もよう
白、黒、灰色のまだら模様をしたカミキリムシ。
ぞうきばやし せいそく とうぼく か
雜木林などに生息し、倒木や枯れ木に集まる。



□ゴマダラカミキリ(コウチュウ目ガミキリムシ科)
しろ てん もよう くろ
白い点模様がある黒いカミキリムシ。
き しきじゅ まちなか
さまざまな木を食樹としており、街中の
ごえん かいろうじゅ み
公園や街路樹でもよく見られる。



□センノキカミキリ(コウチュウ目ガミキリムシ科)
おういろ こま け は け
はねには黄土色の細かな毛が生え、毛の
みつど もよう み
密度によってしま模様に見える。ハリギリ
か しょくぶつ み
などウコギ科の植物で見られる。



□クワカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
おういろ け は
黄土色の毛が生えたはねをもつカミキリ
ムシ。クワやイチジクなどさまざま
こうようじゅ み
広葉樹で見られる。



□キボシカミキリ(コウチュウ目カミキリムシ科)
きいろ はんもん なが しょくづく にくちょう
黄色い斑紋と長い触角が特徴のカミキリ
はんもん ちいき こたい へんい
ムシ。斑紋は地域や個体によって変異が
おお き み
多い。クワやイチジクの木などで見られる。



□ヨツモンカメノコハムシ(コウチュウ目ハムシ科)
かいじゅう し
サツマイモの害虫として知られるハムシ。
いせん おきなわ いなん
以前は沖縄以南にしか生息しなかった
かぶつ かくたい
が、分布が拡大している。



□クロトゲハムシ(コウチュウ目ハムシ科)
からだじゅう くろ
体中にトゲがある体長5mmほどの黒い
は た
ハムシ。ススキの葉などを食べるため、
かせんじき み
河川敷などでよく見られる。



□ヨモギハムシ(コウチュウ目ハムシ科)
たいちょう じんか にわさき はたけ
体長7-10mmほどの人家の庭先や畑の
み ちひょう
ヨモギでよく見られるハムシ。地表をよく
ある まわ と すく
歩き回り、飛ぶことは少ない。



□クロウリハムシ(コウチュウ目ハムシ科)
たいちょう くろ
体長6mmほどの黒いはねをもつハムシ。
か しょくぶつ は た
ウリ科のほか、さまざまな植物の葉を食べる。



□クロボシツツハムシ(コウチュウ目ハムシ科)
に なかま
テントウムシに似ているがハムシの仲間。
はる ぞうきばやし み
春の雑木林でよく見られ、サクラやコナラ
こうようじゅ は た
など広葉樹の葉を食べる。



□エゴヒゲナガゾウムシ(コウチュウ目ゾウムシ科)
しろ はびろ どうぶ なが しょくづく にくちょう
白く幅広い頭部と長い触角が特徴のゾウ
み あつ み あな
ムシ。エゴノキの実に集まり、メスは実に穴
あ さんらん を開けて産卵する。



□コフキゾウムシ(コウチュウ目ゾウムシ科)
みどりいろ きいろ りんべん
緑色や黄色の鱗片におおわれたゾウム
シ。クズなどマメ科の植物が生い茂る
そち せいそく お しげ
草地に生息している。